

和の光

宝塚市立西谷中学校



「群青」

通級担当教諭 吉田 昌代

3年生のみなさん、卒業が近くなってきましたね。
ちょっとまだ早いですが、ご卒業おめでとうございます。
卒業の季節が来るたび思い出す歌があります。

2011年、私は3年生を担当していて無事卒業式を終え、学年の先生みんなと和やかに昼食をとっていました。そんな時、東北のあたりで地震が起きたというニュースをネットで知りました。我々の地域は朝から卒業式を終えたけれど、他の地域は大丈夫だったのかしら？みんなでそんな心配をしながら昼食をとっていたのを覚えています。しかし、家に帰って夜のニュースを見て目を疑いました。この津波の様子は果たして現実？日本で起こった地震？見たこともないような情景がそこにはありました。

「群青」の歌

2011年3月11日14時46分東日本大震災、この地震でたくさんの方が亡くなり、福島県の学校でもたくさんの生徒が地震・津波の被害にあいました。「群青」とは、福島県の生まれ育った海の色。でもその海の津波と地震で仲間を失ってしまったそのショックで、当時ある中学校の1年生が地震以降全く歌を歌えなくなってしまったのです。ずっとそのまま歌うことを忘れてしまったかのような元気のない生徒達を見て、当時の音楽の先生が、せめて卒業式では「歌うこと」を、取り戻せるようにと、みんなで歌詞を書くことを提案し、先生が作曲をするという取り組みを始めたのです。そして出来上がったのが、「群青」でした。

この歌詞の中の、『**またね」と手を振るけど明日も会えるのかな**』

「また明日ね～」と日常の会話が、まさかもう会えない今生の別れになるなんて、みんな想像もしていません。地震後の今日も、生き残った仲間とともに過ごし、「また明日ね」とバイバイ！と言いつつも、福島県のみんなの心の中にはふと「本当にちゃんとまた会えるのかな？」と必ず不安がよぎるわけです。**「遠ざかる君の笑顔 今でも忘れない」**・・明るくあいさつしたいのにその度にトラウマになった不安が身体中を襲ってくる。そして二度と会えない友達の笑顔が遠ざかっていく。

「あの日見た夕陽 あの日見た花火 いつでも君がいたね。あたりまえが幸せと知った」

そして、何気ない日常、一緒に自転車をこいで学校へ行ったり、花火を見たり、部活帰りにみんなが夕陽を見て、という「あたりまえが幸せ」という大切なことに気づくのですが、あまりに中学生には酷な経験です。

「響け この歌声 響け 遠くまでも あの空の彼方へも 大切なすべてに届け」

この卒業式の歌「群青」は、地震で家をなくし、違う県に住んでいる友人、天国へ行ってしまった友人にも、届きますように！ そんな思いで、空で繋がっているみんなに向かって歌ったそうです。

そして、

「きっと また会おう あの町で会おう 僕らの約束は 消えはしない 群青の絆」
「また 会おう 群青の町で・・・」

まるで生まれ変わってもまた会おうと言っているかのように聞こえます。今すぐに会えなくても、永遠の絆がそこにはあるし、必ず会うという力強い意志がそこには感じられます。

私は、この歌詞にでてくる「**あたりまえが 幸せ**」という言葉が大好きです。「幸せ」なんて日常から離れたところにある特別なイメージをもっていたのですが、何気ない平和な毎日こそが幸せであり、感謝すべきことなのであるという事をこの詩から気づかせられました。

生徒たちはあんなに悲しく全てを奪われたにも関わらず、歌詞は「絶望」ではなく、「希望」「ひかり」という言葉で表現しようとする強さ、本当にすごいです。「卒業」をきっかけに、変わらない事、変わらなくてもいい事、変わっていきたい事、変わるべき事を「希望」「ひかり」に向かって精一杯、それぞれの壁を乗り越えようとしている姿に感銘を受けます。壮大な群青の海が、みんなの帰るべき原点だと語ってくれているようです。

「地震から学んだこと 今思うことは、感謝ばかり」

私は阪神淡路大震災を経験しています。地震直後は、家のテレビや電子レンジがぶっ飛び、食器棚が倒れてガラスの破片だらけになっている床を、大の大人が恐怖で泣きながら這っていたことを覚えています。数日後に控えているスキー転地のための買い物で、私は地震の2日前に三ノ宮を訪れていて、その町がぐしゃぐしゃになっているのを、後日テレビで見ました。怖すぎて身も心も張り裂けそうな時、支えになってくれたのは、家族や学校の同僚の仲間でした。家族や良き仲間がいなかったら今頃どうしていたことでしょう。また、「関西頑張れ～復興」（だったかな）と書いた横断幕を車体にくくりつけた他府県ナンバーのガス復旧応援車が、何台も街を走るたびに涙があふれ、救援物資を配り歩いてくださった人たちにも感謝感謝。思い出したらさきがないほどです。今、水道をひねれば水が出るし、スイッチを押せば、ガスも出る。こんな些細なことさえ、実は幸せなことなんですよ。皮肉なことに、震災がなかったら今でもあたりまえのことに感謝もできず、仲間のぬくもりも知らずにいたかもしれません。できれば震災は、もう誰にも経験してほしくないです。けれども、自分が本当に困らないと忠告や感想を実感として持てないのも、悲しいかな人間かもしれません。

卒業に寄せて、明るい話でもなくてごめんなさい。でも、これから生きていく上で、大切な事がいっぱいあります。いつ何時起こるかわからない南海トラフ地震への備え、困ったときはみんなが支え合うこと、家族に感謝、自分を大切に、それと同じくらい周りも大切にということ…。これからの大いなる未来への希望とともに、もう限界だと思うくらいの大変なことは必ずあるので、何があってもぶれない自分の原点を持ち、西谷の仲間の絆を胸に、くれぐれもたくましく生きていってください。「希望」「ひかり」を胸に。乗り越えられない悩みは与えられません。「生きていけば人生ニャンとかなる」（猫の本より）。

みなさん感動の合唱を、是非一度 YouTube で聴いてください。